

いまさらですが、もう一度復習：句読法について

2002.6.14

(追補 2012.5.2)

Richmond E.S.

I.Nishida

英語では、文章の最初の文字は大文字で始め、文章のおしまいは、平叙文では終止符で、疑問文ならば疑問符で終わるということは今さらいうことはありません。しかし、ちょっと考えて見ますと、文章には、普通の平叙文や疑問文だけでなく、感嘆文だとか、文中に引用符を用いて話者の直接話した文の挿入、そのほか、省略や、文章の意味をより詳しく伝えるための例示、引用の表示など結構のバラエティがあります。日本語の場合には、これらの文章の句読法を示すには、点（.）、丸（。）、かぎ括弧（「」）とせいぜい、括弧、棒線（——）ぐらいしかありませんが、英語の場合には、ピリオド、疑問符（?）、感嘆符（!）、コロン（:）、セミコロン（;）、引用符（米式は“、英式は’）、ハイフン（-）、アポストロフィ（’）などなどかなり多くの記号を用います。基本的には、これらの句読記号の使い方は常識に従えばよいのですが、意外に、勘違いしている場合もありますので今回、あらためて句読記号の使い方を復習したいと思います。

（ちょっと余談ですが、そもそも英語の場合には、フランス語における「アカデミー・フランセーズ」や日本語における「国語審議会」のようなお上から文字や文章の使い方を規定し、指導・強制するお役所はありません。基本的には、一番多く使われている方法、一番良く売れた本や辞書、文法書に準拠するといういわゆる“慣習法”の考え方にのっています。そういえば、英語の単語には、**knife, enough, corps** など発音と綴りがまったく異なるもの多くあり、また、同じ綴りでも、たとえば、**ti** は **time** ではタイ、**ticket** では、ティと発音が異なるなど、我々英語学習者として大変困りものです。しかし、イギリスの高名な哲学者、政治指導者であったフランシス・ベーコンは、発音は時代によって変わるものであり、あえて綴り字は発音どおりにしなくとも良い、という考えだったそうです。（渡部昇一 「講談・英語の歴史」 PHP 新書より）

では、話を句読法に戻しましょう。代表的な例として、文中に引用符を用いて直接話法を挿入する場合の文章を挙げてみましょう。
次の例文見て、句読法のと看してどちらが正しい用法として認められるか選んでみてください。

(なお、ここでは米国式の句読法を記す。英国式については下記の注1を参照。)

(1) She said, "I'm going to get married."

(2) She said, "I'm going to get married".

(3) Did you say "He was fired"?

(4) Did you say, "He was fired?"

(5) Did the driver ask, "Where to?"

(6) Did the driver ask?, "Where to?"

正解は、それぞれ、(1),(3),(5)です。

意外に、さてと迷うことはないでしょうか。文中に引用符でくくった直接話法の文を挿入した場合の句読法の原則は以下のとおりです。(例文等は、旺文社「ロイヤル英文法改定新版」より抜粋)

- ① コンマ、ピリオドは引用符の内側に、コロン、セミコロンは引用符の外側に置く
したがって、(1),(2)では、(1)が正しい用法ということになります。また、コロンの場合、次のような位置に使います。 He said, "No": it was a decisive answer.
- ② ?または!が本文全体につくものなら引用符の外側に置く
したがって、(3),(4)では、(3)が正しいとなります。
- ② 両方が疑問文の場合は、?は引用符の内側にだけに置く
ということで、(5),(6)では(5)が正しいということになります。

その他、句読記号の使い方として、「:」(コロン)、「;」(セミコロン)の使い分けも意外に難しいものです。ぜひお手持ちの文法書を一度参照してください。それと、今回この句読法をまとめるに当たって、私自身も勉強になったのは、「. . .」(省略符号:Ellipses or Three Dots)の使い方です。上述の「ロイヤル英文法改定新版」によりますと、文中で引用文の一部を省略するときは、. . .の前後と、.の間は1スペースずつあけるといいます。次の例文を参考にしてください。

Kennedy said, "And so, my fellow Americans . . . ask what you can do . . ."

特に、文全体の終止符の前に、省略符号 . . . がくる場合には、. は計4つになります。

もう一つ、勉強になるのは、「()」(カッコ: Parentheses)と、「[]」(ブラケット: Brackets)の使い分けです。

()は、文中での補足・説明の場合に使い()内に語句を挿入するのはよく使いますが、ブラケットは、

① 引用文中のある語句に自分の説明を入れるとき

“They [Marie Curie and her husband Pierre] extracted radium from pitchblend”

② カッコ内のカッコとして用いるとき

The usage of *in case* is well explained by a grammarian (see Michael Swan: *Practical English Usage* [Oxford University Press, 1995], p.257).

(注： 問題部分をイタリック字体にしている)

注1： 引用符は、米式は2重引用符 “ を、英国式では単一引用符 ‘ を用いる。直接話法での、引用符とピリオドの正書法は、

米式： She said, “I’m going to get married.”

英式： She said, ‘I’m going to get married’.

のように英式ではピリオドは単一引用符の外に記される。

最後に、参考までに句読記号の読み方をあげておきます。

1. Punctuation marks

ampersand	&	angle brackets	< >
apostrophe	‘	braces	{ }
brackets	[]	colon	:
comma	,	dash	—
ellipsis, suspension periods	...	exclamation mark	!
hyphen	-	parentheses	()
period, full stop, dot	.	question mark	?
quotation marks	“ ”	semicolon	;
single quotation marks	‘ ’	virgule, slash mark	/

<注 2： >インターネットのホームページやメールのアドレスでは dot と読む
<http://www.richmond.co.jp>

また、数字の小数点は、point と読む。 12.345

2. Reference marks

asterisk, star	*	bullet, centered dot	●
caret	^	dagger, obelisk	†

ditto mark “
paragraph ¶
section §

double dagger ‡
parallels //

3. Others

swung dash ~
underscore, underline —
at sign @
registered trade mark ®

tilde ~
vertical bar, broken bar, pipe |
copy right symbol ©

=以上=